

「生きている者の神」

1. はじめに

- ・この話は差し迫った問でもない。しかしルカはこの記事の中に「復活」のことがあるため、その説明の重要性を感じたと思います。主イエスは「よみがえり」「信仰」について丁寧に説明する。
- ・「復活」という考えは比較的后代のことで、BC8~6世紀ホセア、エゼキエル書に表れ、個人の復活になると BC2 世紀に書かれたといわれるダニエル 7 : 13 以下に預言されている。
- ・聖書における真理は人間の歴史のなかで、歴史の時間において現れてくる。復活という真理はイエスにおいて現実のものとなった。

2. 本文

- ・ 27 ~ 33 節 ; サドカイ人たちの問
 - ・ ① 7 人の兄弟がいた。② 長兄が妻を迎えたが、子を残さず死んだ。③ 弟がその妻をめとったが、同じように死んだ。④ 以下最後の弟もそうであった。⑤ では復活の際、誰の妻になるのか。
- ・ サドカイ人の説明
 - ・ 当時のユダヤ教は大きく三つのグループに分かれていた。パリサイ派、サドカイ派、エッセネ派である。新約聖書に明確に出て来るのはパリサイ人とサドカイ人です。ザックリ言うと、パリサイ人は律法学者、サドカイ人は祭司であった。サドカイ人は仕事柄モーセ五書を重要と考え、パリサイ派の口伝律法を否定した。そして復活も否定した。モーセ五書からは理解できなかったからである。両派は犬猿のなかであった。
 - ・ 復活を信じる、信じないにかかわらず一般的な考えはこの世の延長として、または再現としてであった。それは「誰の妻になるのか」の問です。
- ・ 34 ~ 40 節 ; イエスの答え
 - ・ サドカイ人に対して出エジプト 3 : 6 を根拠に丁寧に説明した。
37 節「モーセも柴の箇所、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、死んだ者がよみがえることをあきらかにしました。」
 - ・ 39 節 : 律法学者たちの何人かが、「先生、立派なお答えです」と答えた。

3. まとめ

- ・ ヨハネ 11 : 25、26
イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」
- ・ ローマ 6 : 4
私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。
- ・ ヨハネ 7 : 39b, ルカ 24 : 49 (ペンテコステへの道)